

「金融・資本市場活性化に向けての提言」について

金融庁 総括審議官

三井 秀範

全文は下記ホームページを参照願います。

<http://www.fsa.go.jp/singi/kasseika/20131213.html>

(英語仮訳) <http://www.fsa.go.jp/en/refer/councils/vitalizing/20131213/01.pdf>

■ I. 経緯

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)及び「成長戦略の当面の実行方針」(同年10月1日日本経済再生本部決定)において、日本の金融・資本市場の総合的な魅力の向上策等について、年内に取りまとめを行うこととされたことを受け、各界の有識者(下記参照)による精力的な意見交換が行われ、同年12月13日(金)に「金融・資本市場活性化に向けての提言」が麻生副総理に提出された。

(参加者：敬称略)

伊藤 隆敏 東京大学大学院経済学研究科教授(幹事)

岩間陽一郎 日本投資顧問業協会会長

奥 正之 (株)三井住友フィナンシャルグループ取締役会長

小島 順彦 三菱商事(株)取締役会長

斉藤 惇 (株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループCEO

吉野 直行 慶應義塾大学大学院経済学研究科教授

坂根 正弘 (株)小松製作所相談役(11月29日の会合にゲストスピーカーとして参加)

(事務局：金融庁、財務省 オブザーバー：日本銀行)

■ II. 提言の概要

日本経済は、アベノミクスによって、デフレが固定化された縮小均衡から、企業・家計の成長期待を定着させ、持続的な経済成長がもたらされる「望ましい均衡」への跳躍・回帰が進みつつある。更には、2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致決定により、内外の日本経済に対する期待と注目が高まっている。今こそ、まさにこのチャンスを生かし、「2020年までに国際金融センターとして、アジアにおいてナンバーワンの地位を占めることを目指す」との目標を掲げた上で戦略的かつ大胆に各般の施策を講じていく必要がある。

この検討にあたっては、日本経済の強みは「ものづくり」であるとの認識の下、実体経済と金融業とがいわば「車の両輪」の関係に立って成長していくこと、すなわち、金融業は実体経済への資金供給に際して付加価値の高い目利き能力やコンサルティング能力などを発揮し、それを受けてものづくりをはじめとした実体経済も付加価値を生むというプロセスを実現すること、が重要である。

また、金融戦略の策定にあたっては、金融制度に直接関わる施策にとどまらず、人材育成やビジネス・生活環境に至る、いわゆる社会的土台にも及ぶ改革が必要である。

具体的には、資金の好循環を後押しする施策に止まらず、高齢化・少子化の進展、急速に存在感を高めるアジア諸国の経済力やアジア企業の競争力、こうした動きを踏まえた本邦企業のビジネスモデルの変革や産業構造の変革、更にはこのような内外の動きを反映したエネルギー需要・インフラ整備需要の高まりなどの我が国経済社会の構造変化を踏まえ、次の4つの課題について、目指すべき2020年の姿を想定した上で、「直ちに取り組むべき課題」、「次の段階に取り組むべき課題」に整理して提言している。

① 豊富な家計資産と公的年金等が成長マネーに向かう循環の確立（いわゆる「眠っている」とされる資金の活用）

（2020年に想定する姿）家計がライフサイクルを踏まえ、世代に応じた資産形成（リスクテイク）を行える環境を確立する。我が国金融・資本市場が、世界の機関投資家や高度金融専門人材が集まり、質・量ともに高い運用が行われる場となる。

（直ちに着手すべき施策）国民のライフサイクルに応じた資産形成支援策、GPIF等の改革、インフラファイナンス市場の整備、総合取引所早期実現への取組み等

（次のステップ）個人の投資促進策、GPIF等の更なる改革、インフラファイナンス市場の対象事業拡大等

② アジアの潜在力の発揮・地域全体としての市場機能の向上、我が国との一体的な成長

(2020年に想定する姿) 本邦企業による円滑な現地通貨調達やグローバルベースでの効率的な資金管理環境を実現する。アジア地域全体のクロスボーダーでの資金・証券の取引・決済市場・システムを確立する。我が国との一体的な成長、東京市場がアジア・ナンバーワン市場としての地位を確立する(例:アジア企業の東京市場への上場・我が国での起債、各国通貨のクロスカレンシー取引のハブ化、インフラファイナンス市場の発達)。

(直ちに着手すべき施策) アジア各国の発展状況に応じた金融インフラ整備支援、本邦企業のアジアでの資金調達等の円滑化、東京市場での起債等促進等

(次のステップ) クロスボーダー債券発行・取引円滑化のための市場整備等への取組み等

③ 起業・新規事業創出の促進、企業の競争力・経営力の強化、事業性重視の融資

(2020年に想定する姿) 高い開業率や新規株式公開を実現する。企業内・企業間で新陳代謝や再編が活発に行われる社会、再チャレンジが可能で新たな産業が活発に勃興・成長する社会、投資対象として魅力の高い真にグローバルな企業が数多く繁栄している社会を実現する。

(直ちに着手すべき施策) クラウドファンディングの整備、新規上場時の負担軽減策、ROE重視の株価指標の定着促進、社外(独立)取締役導入促進、スチュワードシップコードの策定・定着、経営者保証に関するガイドラインの浸透・定着、事業性重視融資の促進等

(次のステップ) エクイティ性資金供給の促進に向けた取組みや起業化・事業化を支援する取組みの強化、企業統治の更なる強化等

④ 人材支援・ビジネス環境の整備

(2020年に想定される姿) 質・量ともに十分な国際的人材を確保する。国際的に魅力のあるビジネス・生活環境を実現する。

(直ちに着手すべき施策) 金融関連法令・ガイドライン等の英語化、金融行政における英語対応の強化、金融・法務・会計の専門家の内外交流の促進、グローバル人材の育成

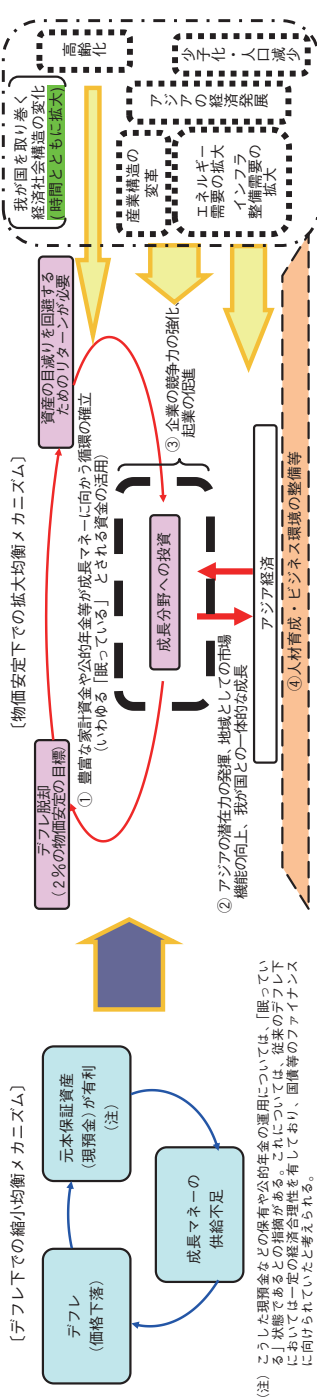
(次のステップ) グローバル人材(マネージメント人材、高度人材)の育成、空港アクセス等のビジネス環境の向上、外国人の入国・滞在環境の向上等

■ Ⅲ. 今後の予定

本提言については、金融庁・財務省において関係省庁等と連携しながら必要な施策を講じていく。また、目標の実現のためには、本提言の着実な実行に止まらず、この進展状況をフォローアップし、更なる施策を検討し積極的に講じていく必要があり、2014年入り後も本会合を定期的で開催する。

「金融・資本市場活性化に向けての提言」の概要

日本経済において、アベノミクスにより、デフレ下の縮小均衡から、次のステージの持続的な成長をもたらす「望ましい均衡」への跳躍・回帰が迫る中、「金融・資本市場の成長戦略」の実行が喫緊の課題
 — 人口減少、高齢化など構造的な課題に対応する意味からも、日本の有する資産の有効活用、海外との一体的成長、個人・企業の生産性向上を進める必要
 — 特にアベノミクスによるインフレ期待の醸成、2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致決定等により、内外の日本経済に対する期待と注目が集まる現在
 — その際、金融・資本市場の活性化については、ものづくりをはじめとした実体経済と金融部門が「車の両輪」として相互に付加価値を生み好循環を実現することが重要



2014年から直ちに着手すべき施策

| | |
|---|--|
| <p>① 豊富な家計資金と公的年金等が成長マネーに向かう循環の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民のライフサイクルに応じた資産形成の支援 GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)等の改革(海外年金ファンドの共同投資等) インフラファイナンス市場の整備(東証による上場インフラファンドの創設等) | <p>次のステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 更なる個人の投資促進策 更なるGPIF等の改革の取組み インフラファイナンス市場の対象事業拡大 クロスボーダー債券発行・取引円滑化のための手続整備(ASEAN諸国との債券発行手続の共通化等) |
| <p>② アジアの潜在力の発掘、地域としての市場機能の向上、我が国との一体的成長</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア各国の発展状況に応じた金融インフラ整備支援 アジアでの資金調達等の円滑化(グループ内企業の買付規制緩和、JICA(国際協力機構)による現地通貨建ての海外投資策等) 東京市場での起債等促進 DBU(日本政策投資銀行)による東京フロート市場への投資枠設定、IBC(国際協力銀行)によるサムライ債券保証・取得の適用対象拡大等) | <p>【2020年の姿】国際金融センターとしての地位を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊富な家計資金と公的年金等が成長マネーに向う循環の確立 個人がライフサイクルに応じてリスク資産をも適切に組み込んだ資産形成を行う社会 内外のスタイルの高い機関投資家が東京市場に集まり、高度な運用を競い合う市場 GPIFなど公的・準公的資金の高度運用、スチュワードシップコードや適切な企業統治 東京市場がアジアナンバーワン市場としての地位の確立 総合取引所に内外の多様な商品が上場され、アジアをはじめ多様な投資家や企業が参加する活発な市場の形成 インフラファイナンス市場が高度に発達 |
| <p>③ 企業の競争力の強化、起業の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> リスクマネー供給のための各種施策(オフショアファイナンスの本格整備、新規上場時の負担軽減等) 企業の新規代辦・ガバナンス強化に向けた取組(成長性に着目したマーケット指標の導入、スチュワードシップコードの導入等) 事業性重視融資の促進 | <p>【アジア】で我が国が強みを生かした成長性ある企業群の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア各国における本邦企業の円滑な現地通貨建て資金調達、買出等の実現 アジア地域におけるクロスボーダーでの資金・証券の取引、決済の市場やシステムの確立 東京市場が国際金融センターとしてアジアへの資金供給、海外から日本への投資において高い仲介機能を発揮 |
| <p>④ 人材育成、ビジネス環境の整備等</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融関連法令・ガイドライン等の英語化の徹底 | <p>【質・量共に十分な国際的人材の育成・確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルで我が国の強みを生かした成長性ある企業群の発展 新産業・新規企業が活発に勃興し成長する活力ある企業社会の実現 一帯一國産業(10%)・新規公開数・技術・アイデアの事業化を支援する高度人材ネットワークの実現 我が国強みの強みを生かした一つ一つの投資対象として魅力的で真にグローバルな企業が数多く繁栄 高い成長力を有する部門への経営資源の集中、投資へのリターンを意識した経営、適切な企業統治へ 金融機関の融資における事業の成長可能性の重視 |